

事後評価シート

調査研究課題名	空き家発生・分布メカニズムの解明に関する調査研究（その1）
担 当 者	主任研究官 上田章紘 客員研究官 秋山 祐樹 研究官 大野佳哉
① 当初目標と目標達成度	<p>戸別外観目視による空き家分布調査を行うには多大な人員、時間及び費用を要することが、市町村の空き家対策に係る障壁となっている。本調査研究は、空き家の分布を簡易に把握する手法の開発を目指すとともに、空き家の分布のメカニズムを考察することによって、この障壁に対応するとともに、都市空間の有効活用と空き家問題の解決に資する知見を獲得し、関係原局等へ提供することを目的とするものである。</p> <p>鹿児島市の協力の下に現地調査と分析を行い、空き家の分布を戸別外観目視によらずにデータから簡易に把握する手法を試作することにより、当初の目標を達成できたものとする。引き続き、精度の向上を図る。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>放火による火災や不審者の侵入等の治安の悪化、自然災害時の倒壊の危険性、景観の悪化等、近隣住民や地域全体に深刻な影響をもたらす可能性がある空き家の適切な管理が求められている。このような背景を受けて平成 26 年 11 月に成立（平成 27 年 5 月施行）した「空家等対策の推進に関する特別措置法」は、市区町村に対して、空き家に関するデータベースの整備等を努力目標として課している。本調査研究は、この遂行のために必要な、空き家の分布状況を簡易に把握する手法の確立等を目指すものであり、妥当性を有する。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>随時、省内関係部局、地方公共団体、関係団体・企業、有識者等から、調査研究の進め方、調査内容の妥当性やまとめ方について助言をいただきながら、調査研究を進めた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果は報告書の形に取り纏め公表するとともに、引き続き精度の向上を図る。空き家対策に関する政策立案や取組み検討に当たって有益な情報を提供し得るものである。</p>
⑤ その他	<p>調査研究内容を PRI Review 61 号に掲載するとともに、平成 28 年 5 月に開催された国土交通政策研究所研究発表会で報告した。</p>